

## 30年度第6回そだつ部会議事録

日 時	2019年2月28日(木) 10:00～
場 所	地域連携交流施設 1階 地域活動室
テーマ	1、本日参加メンバー 2、事務局より 3、協議 4、次回開催日の調整
内容	<p><b>1. 参加メンバー：8名</b></p> <p><b>2. 事務局より</b></p> <p>○全体研修会 ・2月7日(木) 桜美林大学 谷内先生 参加者155名</p> <p>○(くらす部会)播磨町福祉会館 キッチンスタジオ 当事者家族が集える場 おにぎり会 →来年度当事者向け料理教室など数回シリーズ開催予定</p> <p>○(はたらく部会) はたらくみんなのお茶会 ・3月24日(日) 12:30～14:00 播磨町総合体育館</p> <p>○かけはし CAFE ・2月19日(火) 9:30～11:30 地域連携交流施設 参加者10名 ・2月23日(土) 9:30～11:30 地域連携交流施設 参加者3名 →予備日の参加者、同じ南小学校に通っているが、ゆっくり話したことがないお母さんだった。この機会に話すことができた。3月に中央こども家庭センターに行く予定の方。改編予定の1枚シートをつかって、新学期に新しい先生に渡せたら…という話になっている。フルタイムで仕事をされている方なので、情報をしっかり得られていない状況。</p> <p><b>3. 協議</b></p> <p>○かけはし改編について ・今回まず第一弾の案として、自己紹介のページと必要な支援について記載したものを両面印刷した一枚もののシートを作成した。関係性の最初の一步としてこれを活用していけたら。 ・文言やデザインなど、意見をいただいて形にしていきたい。</p> <p>○そだつネットワーク 資源・支援の見える化</p> <p><b>障害受容と受診、相談について</b></p> <p>・担任「病院に行ってください、病院は自分で調べて下さい」 →今の時代携帯で調べてしまえ、直接行くこともできる。しかし町と繋がってないと…</p> <p>・一日中仕事しているお母さん、情報が遅れる。子どもが困ったまま二年過ぎてしまった。一年間は通常級。 →病院からのすすめで役場と繋がったが、平日に窓口にいけないうえ行動が遅れる。</p> <p>・総合相談が受けてくれたら…時間が合わずともまず数分でもいいので一報あればつながるこ</p>

とができる。

- ・時間が合わないなら自分も仕事を休むなど少し負担して…
  - ・心の底で障害受容をできないので、あえて決定打を受けずに遅らせるパターンもある。  
→母子家庭、祖母が特に認められない
  - ・口では理解しているように言いつつ、いざ自分にふりかかると嫌、攻撃的になる人も
  - ・保育園、幼稚園ではどうだったのか？気づかなかったのか？  
→オブラートに包まれて言われると、正面から受け止められない。二年半くらいは言われても流れていた。
  - ・事の重みを理解しきれていない
  - ・個別性はあるので難しい…事実をいってもタイミングによっては反感を買うことも  
→この先生の言葉なら…誰に言われるか、関係性による。
  - ・先生の大切さ、大きさ
- 濱口さんが話していたが、大切なのは「人を信じる力」。それを持っているかどうか。信じられる存在がいるか、相談窓口があるか。
- ・かけはしを書くといいことにつながっていくんだというのが分からなければ…読むほうも使い方を分からなければ…
  - ・全ては信頼関係、その空気感の醸成

#### 見える化について

- ・ルート等について共通理解を持てるように冊子化？  
→そだつ部門 生まれてから就学に至るまで
- ・子育てQ&Aは、シミンズシーズの柏木さんに入ってもらって、デザインや編集についてコーディネートしてもらったが、よりよいものを作るために、同じように外から協力を得る形。
- ・総合相談窓口を周知して、そういったルートについて教えればいいのか。  
→皆がつながればいいが、どうしても漏れてしまう場合がある
- ・視覚化したから伝わりやすいとも限らず…何を伝えたいか、何を知りたいか…
- ・伝え方が難しい
- ・信頼関係が大切というところは、Q&A的な冊子ではカバーできない？
- ・誰に向けた冊子なのか
- ・どこが配るのか→配った先と配られた側の信頼関係を構築するということになる。
- ・行政には福祉のしおりがあって分かりやすいが…
- ・資源・支援の見える化という言い方をするのなら、窓口の関係性等を示した一覧表を作るのが正しいのではないか。いかに早く気づいて、つなぐことができるか  
→それをするなら各相談窓口のパンフレットを集めてきて…凝縮
- ・冊子を作るのか、窓口の一覧表を作るのか、ゴールを共有したい  
→目的、対象、内容、どこに配るか、誰が作るかの共有
- ・そだつマップのいい所→書式統一が非常に分かりやすい。どこにどんな専門職がいるかわかる。きっかけにはなる。
- ・行政のものもデータはしっかりしているが、読み込む必要がある。  
→一覧を作るのであれば、書式を統一するのがよい。窓口大全 統一したレイアウトで…

- ・播磨町の子育て支援ハンドブック→改編の際に組織図を差し込む？
- ・詳細まで全部わかっている人は少数で良い→自立支援の部員はそういう存在になるべきか？  
→冊子ではなく、自立支援で毎年情報を集めておく？情報がありすぎても活用できない？
- ・性格的に相談できない人は、冊子が存在してしまうとそこに書いてあるから相談してはいけないと、逆にこもって余計につながりにくくなる？
- ・自立支援協議会として相談の宣伝を担当すればいい？  
→役場としても、なんでも来てもらってもこまる。  
→しかしどんなに些細なことでも、ずれていても、いったん何でも拾わないと…  
→10 分の区切りなど電話の決め方も決める。しょうもないとも言える場所でないと重大なものも拾えない。ルール決めが必要では？
- ・冊子があっても読んでもわからない、自分の必要な事しか入らない。  
→わからなかったら全戸配布しても捨ててしまう。  
→やはりまずは窓口につなぐことではないか。窓口が必要なことだけ伝えればいい  
→個別性、内容の変更もあるので、冊子は難しい。  
→行政の職員も異動があると…窓口の人たち自身も関係性がわかるような一覧表  
→1 枚ものは改編しやすい、エコマップの様なものが一番ふさわしいか
- ・一方、勉強会などしていく中で、知らない事がいっぱい出てきたのでまとめておきたい…という気持ちもある。  
→内容は変わっていくものだが、毎年変更点について顔を合わせて共有し、つながりを持つことが大切ではないか。
- ・冊子はツールであり、きっかけ。冊子そのもので全てが伝わるわけではなく、関わる最初の一步。
- ・本当に必要なものはなにか

#### 自立支援協議会のあり方

- ・自立支援協議会は課題抽出をして提案をしていく場所。解決のための協議・提案はするが、必ずしも自分たち自身が動いていくわけではない。
- ・個別性の難しさがある、という問題提起をすることが自立支援協議会？  
→本来的には課題抽出と提案まで、実際に改善していくのは現場か？
- ・推進会議で問題提起はしている

#### まとめ

- ・播磨町における自立支援のあり方、役割 何をどこまでやっていくのか
- ・目的、対象、内容、どこに配るか、誰が作るかの共有
- ・一覧表のようなものにするのか、冊子にするのか、自立支援としてどこまで動いていくのか、役場ものとの関係も含めて、方針を固め、一つのゴールに向かって動いていく。

#### 4. 次回開催日の調整